梅だより

2024 夏号

2024年9月15日発行

発行・有限会社エイチエヌ・プラナ企画

〒166-0002
東京都杉並区高円寺北3-41-17 ファミーユ太田103
TEL. 03（6265）5775／FAX. 03（6265）5776
WEBアドレス　http://www.pulana.net/
Eメールアドレス　fan@pulana.net

今年の夏も梅原司平はコンサートに出かけていましたよ。そんなご報告と秋冬のコンサートのお知らせを兼ねて久しぶりの司平さん書き下ろしたっぷりの「梅だより」をお届けします。

司平さん大ファンの広島のあるご家族が、お経の代わりに司平さんの歌とお話しだけで一周忌の法事をしたいと言っていただき、ご家族だけで歌の法要を聴いていただきました。

また富山では83歳のお母様の誕生日家族会をしていただいたり、大きなホールでバンドを付けてのコンサートからホームコンサートまで様々なところで梅原司平はまだまだ歌っています。ウチの近くでも？と思ったら思いついたこと何でもプラナに言ってみて下さい。

今後のプラナの連絡先のことなど、次回にはお知らせできる予定ですので、なかなか進まなくて申し訳ありませんが、何らかのご連絡はできるようにしますので、お待ちになって下さい。どうぞよろしくお願いします。

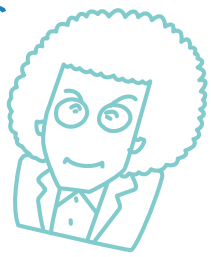
＜コンサートを主催して下さる方、聴きに来てくださる方へ　マスク着用をお願いしています＞
司平さんのコラムにも詳しく書いていますが、司平さんの歌をできるだけ長く聴いていただくために、マスクを着用して聴いて下さい。どうかよろしくお願いします。

梅原司平スケジュール

正式に決定された企画のみ掲載しています。詳細はプラナまでお問い合わせ下さい。

10月13日（日）長野市 長沼支所交流スペース 10:00～ 東日本台風災害5周年（12:00黙とう）
10月20日（日）東京都 白梅学園大学Ｊ棟26講義室 10:30～ 入場無料（先着150名）
鷹の台駅 徒歩15分　小平市小川町1－830　★学園祭のため駐車場はありません。
10月27日（日）埼玉県 川越市やまぶき会館 13:30開演 所沢労音 ピアノ・パーカッション付
12月7日（土）埼玉県 所沢市民文化センターミューズ小ホール 13:30開演 所沢労音 04(2968)5239
12月16日（月）東京都　小平市福祉会館市民ホール　13:30開演　問合080(5479)0875
2025年 2月2日（日）東京都 東大和ハミングホール みんなの家 ピアノ・パーカッション付
3月16日（日）愛知県 扶桑文化会館 14:00開演 扶桑駅 徒歩10分 ピアノ付

平司だより



8月15日、私は広島にいました。17日18日が仕事でその前日16日に前乗りすればそれでよかったのですが例の台風騒ぎです。新幹線が運休になってしまい、結局は前々日の15日に広島に入ったのです。そうしてできた16日という丸一日を、以前から是非この目で見てみたいと気にかけていた場所へ行こうと思ったわけです。

それが「広島陸軍被服支廠」でした。前日駅の観光案内で聞いておいた市電の皆実町2丁目で降りて真っ直ぐです。それが意外と遠い。ましてあの40度も超えそうな炎天下、と思いましたが被爆者の皆さんを思えばそんな事も言っていられません。

そうしてたどり着いた被服支廠。その見上げんばかりの巨大な赤レンガの建造物。2丁目から6丁目に至るまでその全域が「広島陸軍被服支廠」です。軍服を作るためとはいえこんなに大きな建物が必要だったのかと目を疑いましたが、この大きさと頑丈さが原爆投下直後から臨時救護所になったというのも頷けます。（汗を拭くのも忘れ見入ってしまいました。）

詩人の峠三吉さんがいたのはこの二階のどのあたりなんだろう、と思っただけで胸の奥から熱いものがこみ上げてきます。「折り鶴」を作った時に何度も読み返した「原爆詩集」の「ちちをかえせ　ははをかえせ」の言葉が巡ってきます。その詩集の装丁挿画を描いた「四國五郎」さんもここに居たのだろうか、と巡る思いは止まりません。

この建物を巡って、小説家の井伏鱒二は「黒い雨」を書き、原民喜は「夏の花」詩集「原爆小景」を残しています。

しかし、この赤レンガ倉庫も老朽化は避けられません。一時は解体の危機にありました。実際、目の前には「地震の際には危険ですから壁に近づかないでください」と看板が掛けられてあります。

とはいえ、赤レンガ倉庫は原爆の傷跡を今に伝える行き証人です。観音開きの分厚い鉄扉も爆風によって歪んでいます。それでもこうして生き残っているのです。

昨年12月。この建物を平和と文化の拠点にしようと、小田芳生さんらが中心となって「平和美術館設立委員会」を立ち上げ賛同者5300筆の署名をもって県に要請しています。ちなみに小田さんは「原爆の図」を描き続けた画家丸木夫妻の甥だそうです。

解体の危機にあった4棟の赤レンガ倉庫。今は市民運動のおかげで保存の方に舵が切り替わったようです。さてどんな風に生まれ変わるんでしょう。美術館かな？図書館かな？文化施設かな？イベント会場になればそこで「折り鶴」歌ってみたい！夢は広がります。

そして今回、広島への思いに拍車をかけたにはもう一つの理由がありました。NHK朝のドラマ『虎に翼』です。半年続いたドラマもこの9月でおしまいです。今回は、女性で初めて裁判官になった三淵嘉子さんという方の実話です。すでにドラマも終盤を迎え、毎朝見逃せない状況になっていますが、まさかその山場に「原爆裁判」が来るとは思ってもいませんでした。

（次頁に続く）

梅だより

2024
夏号

2024年9月15日発行

発行・有限会社エイチエヌ・プラナ企画

〒166-0002
東京都杉並区高円寺北3-41-17 ファミーユ太田103
TEL. 03（6265）5775／FAX. 03（6265）5776
WEBアドレス　http://www.pulana.net/
Eメールアドレス　fan@pulana.net

（前頁より続く）

しかも、私が広島入りする前日の14日の放映でした。原爆の被害者が日本政府に対して賠償を求めるという裁判が始まったのです。

争点は、原爆投下は「国際法違反」。損害賠償をしなければならないのはアメリカ。しかし、敗戦を迎えた日本はすでに平和条約を締結し、賠償をアメリカに求める権利をすでに放棄してしまっている…。では、今苦しんでいる被爆者はどこに助けを求めればいいのか？

その後、ドラマの中で交わされた法定での発言は、ほぼ当時のままだと知りました。

残念ながら、この裁判そのものは国側の勝訴に終わりました。しかし、しかしです。このときの裁判長の汐見さん。伊藤沙莉さんが演じた主人公「寅子」。そしてもう一人の判事補。その3人が必死になって考えた判決文。裁判長が静かなうちにも優しさと怒りが混在したような、そんな気迫さえ感じさせるような朗読が展開されます。

「判決主文を後に回し、先に判決理由の要旨を読み上げます」。この当時、民事裁判で主文を後回しにして理由を読み上げるというのは異例の出来事でした。後半の半分だけでも紹介させてください。

「国家は自らの権限と、自らの責任において開始した戦争により、国民の多くの人々を死に導き、傷害を負わせ、不安な生活に追い込んだのである。

原爆被害の甚大なことは、一般災害の比ではない。被告がこれに鑑み、十分な救済策をとるべきことは、多言を要しないであろう。

しかしながら、それは、もはや裁判所の職責ではなく、立法府である国会および行政府である内閣において果たさなければならない職責である。

それでこそ、訴訟当事者だけでなく、原爆被害者全般に対する救済策を講ずることができるのであって、そこに立法および立法に基づく行政の存在理由がある。

終戦後十数年を経て、高度の経済成長をとげた我が国において、国家財政上、これが不可能であるとは到底考えられない。我々は本訴訟をみるにつけ、政治の貧困を嘆かずにはおられないのである。」

これを書いている現在9月9日、今朝のニュースでは、今もなお「私は被爆者です」と裁判に向かう人々が列をなして行進している姿がテレビに映っていました。未だに、手を差し伸べることもなく、被爆者と認めたがらないこの国の構造の始まりを、こうして朝のドラマが教えてくれています。そして「原爆の投下は国際法違反である」と司法の場で判決を下したことは、世界初の出来事だったことを、ここで初めて知りました。

まさに、今の私たちや政府に、そして原子爆弾という抑止力に頼るような国際政治そのものにも一石を投じるような、ここまで言っていいのかという忖度抜きで力のこもった判決文の内容でした。その、あまりの素晴らしさに私は感動さえ覚えました。

と同時に、私は、私の創った「折り鶴」が、私が歌った歌たちが、私の歩いてきたこの道が、微力ではあっても無力ではなかったということに確信を持ち、残された人生を真っ当したいと思いました。

「生きていてよかった　それを感じたくて　広島（長崎）の町から　私は歩いてきた」

「この耳をふさいでも聞こえる声がある　この心閉ざしてもあふれる愛がある」

この広島や長崎を、あなたの住む町の名に変えて歌ってみてください。

あなたもまた、この地球の平和を願うかけがえのない、その一人であることに気づくはずです。朝ドラのモデルとなった実在の人物、三淵嘉子さんは裁判官を退官されたあとも日本女性法律家協会の会長になられ、その後も池袋駅の西口に立って核兵器廃絶の署名活動に参加していらっしゃったようです。すごい方です。

話は変わりますが、今回の広島への往復の新幹線で気付いたのは、乗客のそのほとんどがマスクを付けていなかった、ということです。しかもお盆休みで超満員。そんな閉ざされた車内の中で、4時間も一緒だったことを思うとゾッとします。

かつてのコロナのピーク時と同程度になっているというのにメディアはほとんど報道してもくれません。

まして世界のニュースでは、私が敬愛してやまないポール・サイモンさんがコロナの後遺症で難聴になったとかと聞くといたたまれません。あの「サイモンとガーファンクル」のポール・サイモンさんです。名曲「サウンド・オブ・サイレンス」「明日に架ける橋」などを作詞・作曲された人です。また、このサイモンさんの作詞によって「コンドルは飛んでいく」が世界的なヒットとなり、フォルクローレが広く世に知られるようになりました。

そして世界にボサノバを知らしめた超ビックアーティストのセルジオ・メンデスさんがコロナの後遺症で亡くなられました。

まだまだ悔れないコロナです。私も出来る限り気をつけて歌い続けたいです。みなさんも是非お気をつけください。

酷暑と線状降水帯と台風に翻弄された8月でした。

残暑が続く日々もあるかと思いますが、みなさ～ん、元気でいてくださいよ。

梅原司平、まだまだ歌ってますよ～～～っ！

★このようにお知らせしたいことが出来た時に、時々ゆる～く発行している「梅だより」通常は公式サイトでの掲載とメールにてデータをお送りしています。郵送ご希望の方は切手をお送りいただければプリントをお送りします。